

いこいの村

滝本 志す子

題字 梅の木寮（ユニット型）

2011年（平成23年）10月20日発行

第353号

発行責任者

いこいの村聴覚言語障害者センター

所長 柴田 浩志

いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畠町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

栗の木寮『しめなわ開始式』開催！



～今年もがんばります～



5月だ！田植えだ！しめなわの
由来物語の始まりです



生産の種類と数の説明をする班長たち



すぐすくっと稻が伸びていく様子

「しめなわ」を飾るとその家は、災禍（さいか）の進入を防ぐといわれています。九月十三日（火）、第一作業棟で仲間（利用者）と職員で、「しめなわの由来物語」を演じました。田植えや稻の成長を、身体で表現し、呼吸を合わせて伸びていく様が楽しげです。ひたいに汗した稲刈り作業、豊作を喜ぶ秋祭り、太鼓に合わせて踊る村人たち。寒さ厳しい冬を乗り越えた春先、村に発生した火事。しめなわのお蔭で、災難に合わなかつた家。仲間の熱演に拍手喝采。その後、舞台から会場に質問が飛び、参加者が答えます。「これは何」「うらじろです」「正解」「うらじろの由来も教えて」「心が清い」を現わします」「たいだいには、『家系繁栄』の意味があります」楽しいやりとりで、会場は温かな笑顔でいっぱいになりました。（滝野 千里）

し
め
な
わ
の
由
来
物
語

いーいの村・とくらの家

【初めての敬老祝賀会】

いつもの生活の場を離れ、

席するJリート不安を感じられるJ利用者もおられましたが、敬者祝賀式では来賓の方々からお祝いの言葉や品を受け取

地域の敬老会? い「この家の敬老会? 》
そこで相談を重ね、「馴染みの薄い敬老会に」参加
していただいても、楽しめた
いのではないか」といふのは「住み慣れた

心地悪さの加減を呴き吸口
へと離れてゆくだけでした。

「夏毎うや暮る物せつたな
あ」とハジの嫁での生活を
語り切らばかり、散々体を樂
しみに耽らひてゐた

《とくべつの家敬老会》

《ヒルの家敬老会》

「豪華なお弁当で食べられる
やつか」

したが、「家族や」利用者も
一緒になって楽しめました。
「利用者から息子さんへパン
を食べさせてあげたり、「夫
婦で仲良くなれてケーキを食べさせ

A black and white photograph capturing a moment of intergenerational care. An elderly man with a mustache and glasses is leaning over a table, holding a spoonful of food towards a young child. The child, wearing a light-colored jacket, is looking down at the spoon. The setting appears to be a home kitchen or dining area, with a window and curtains visible in the background.

三崎史生・JUNIOR'S

健康の豆知識

高血圧はなぜ怖い?



血圧とは

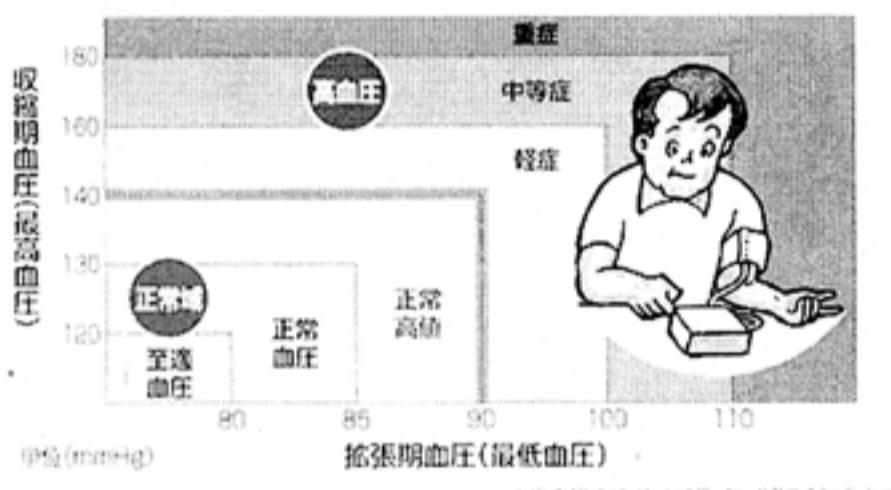
心臓は強い力で血液を全身に送り出します。心臓から押し出された血液が血管壁を内側から押し出す力、それが「血圧」です。一日におよそ10万回も縮んだり(収縮)膨らんだり(拡張)を繰り返しています。

心臓がギュッと縮んで血液を送り出すときの血圧が「収縮期血圧」で、最高血圧、最大血圧、上の血圧などとも言われます。

収縮した心臓が元にもどり、「拡張期血圧」で、最低血圧、最小血圧、下の血圧などとも言われます。



血圧の分類



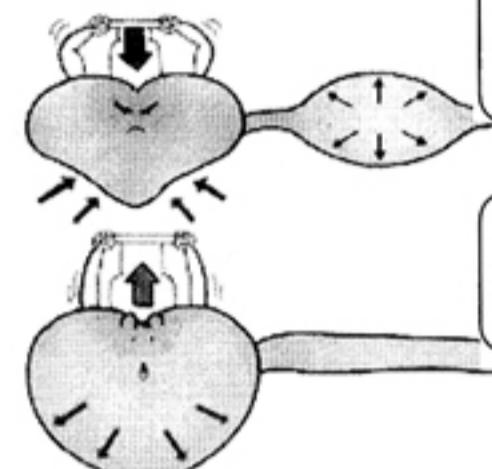
高血圧とは

140/90以上が高血圧

血圧が高いとどうことは、血管の壁に内側からかかる圧

力が通常より大きいことです。

これは、血管の壁に悪い影響をかえることになり、いろいろな疾患の原因になります。



高血圧はサイレントキラー

症状がないにもかかわらず、放つておると寿命を縮めることがあります。心臓に負担がかかると狭心症や心筋梗塞などを起こしやすくなりまます。また、脳に負担がかかると血管が詰まり、破裂して脳卒中が起ります。腎臓に起ると腎不全になります。



予防は生活習慣の見直しから

高血圧は遺伝に加えて、過剰なエネルギーの摂取や肥満、塩分の多い食事、運動不足、お酒の飲み過ぎなどの環境要因が加わって発症します。

ですから予防するためには生活習慣の改善が大切です。発症した場合は、やうなる生活习惯の改善が重要になります。

(施設第一福祉部 医務係 森智里)

不便なことは沢山あります
京都府盲ろう者通訳介助員養成講座(綾部会場)が十月二日から始まりました。同講座は昨年から、京都北部盲ろう者たんぽぽの会の強い要望により、京都府北部で毎年開催されるようになりました。開講式では、北は京丹後市から、南は長岡京市から参加された十五人の受講者に挨拶させていただきました。第一講では京都府北部にお住まいの三人の盲ろうの方が、暮らしにおける苦労や不便さについて熱く話されました。たんぽぽの会から養成講座がわずか一十時間であることや通訳介助員の派遣時間が一日八時間に限定されていること等、盲ろう者対策の遅れが指摘されています。視覚・聴覚の個別対策ではなく、「盲ろう」という障害に即した施策の確立が必要です。

いこいの村
聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

